



阿寒摩周国立公園
冬

WINTER'S TREASURES

発行：釧路自然環境事務所 阿寒摩周国立公園管理事務所
<https://www.env.go.jp/nature/nationalparks/>
2021.3



HOKKAIDO JAPAN



火山と森と湖とともに

1934年12月に指定されて以来、多くの人々を魅了してきた「阿寒摩周国立公園」。原始的景観が今なお色濃く残る雄大なこの大地は、火山と森と湖が織りなす独創的で躍动感のある空間が特徴だ。特に冬。氷点下30℃にも達するこの地では、大木が冷気により裂け、湖は凍つつく。一方、火山周辺の小さな噴気孔では、マダラズスが鳴いている。雪に覆われた地面から滲み出る湧き水。厳しい冬を生き残らせる野生動物。自然の力に翻弄されながらも日々の変化に一喜一憂し、長く美しい冬を慈しむ人間。寒ければ寒いほど輝きを増す宝石箱のような風景の中で、私たちはこれから先もこの素晴らしい自然とともに生きてゆく。



風が作る世界。

風によって作られた景色。

風は破壊と構築を繰り返し、鋭く、滑らかで、

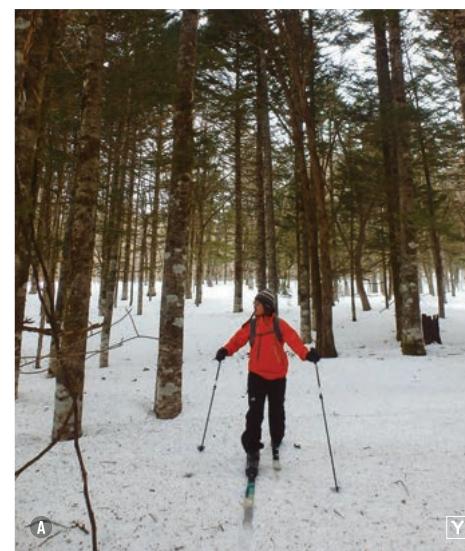
潔く、大胆な線を生む。

風が止めば、そこには極上の風景が待つ。



2

E



A

Y

① 美幌峠から屈斜路湖を望む。朝日が雪を赤く染め、放射冷却が地表の熱を奪う。空気は冴えわたり、太陽があたりを照らすと、エッジの効いた大地の輪郭が次第に顕わになる。

② 和琴半島北西岸のしぶき氷、氷柱群。狂暴な北風と冷酷な気温が作り上げた豪快かつ繊細なアート。湖上から見られるのは結氷前の僅かなタイミング。④針葉樹の森を歩く。風が強い日でも、木々に囲まれれば暖かく穏やかだ。森と湖。どこか北欧を思わせる阿寒摩周国立公園には、ノルディックスキーが良く似合う。野生動物の足跡を追いながら、私たちも森の一部になる。



水は巡る。姿かたちを変えながら。湖の水は川を下り海に注ぐ。

やがて蒸発し雲になり、雨や雪となって大地に溶け込み、湧き水として地表に現れる。
冒険にあふれ、生命に満ちみちた美しくすばらしい水の世界。

B 届斜路湖から唯一流れ出る釧路川をカヌーで行く。その源流は冬も凍らない。特に冷えた朝には蒸気霧が発生し、周辺の木々は霧氷となる。低い太陽が水面を弾き、寒さを忘れるほど美しい光景に浸る。① 冬の使者オオハクチョウ。例年10月中旬にシベリアから南下する冬鳥。僅かな水辺を求め、今日もコタン温泉周辺に集う。晴れの日も雪の日も、湖畔でたくましく懸命に寄り添う純白の佇まいにファンも多い。

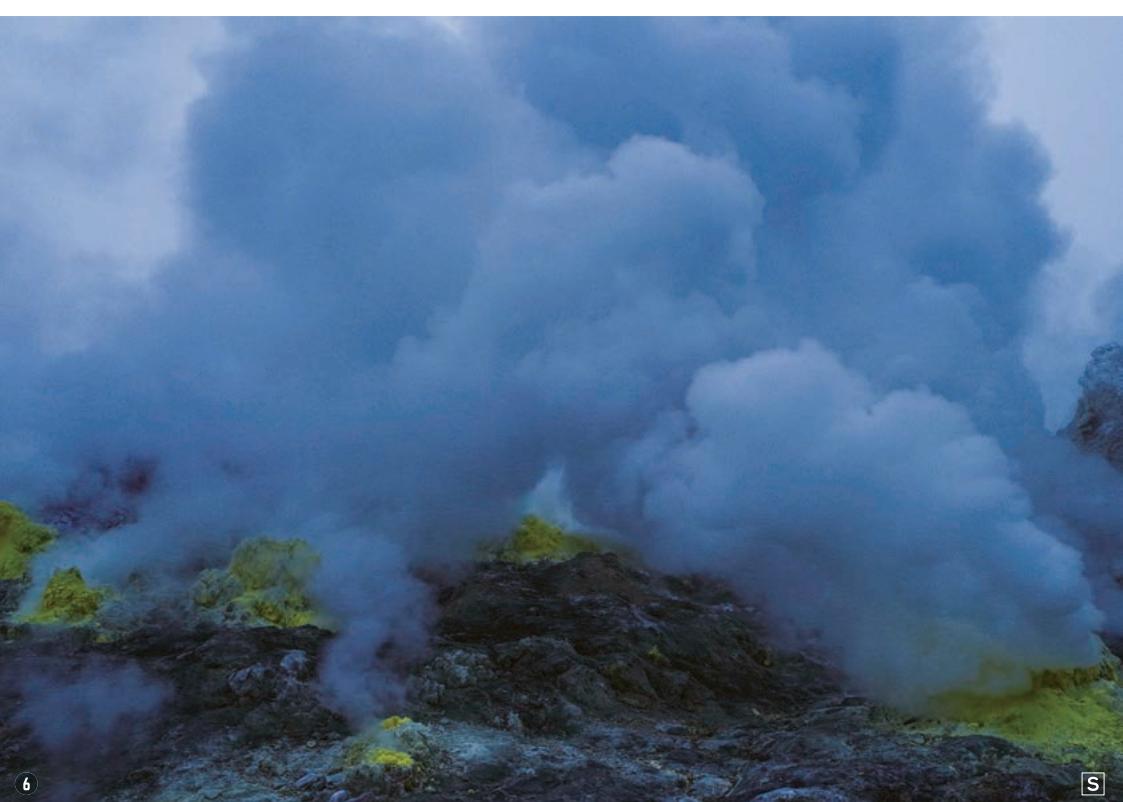


原始的な姿を色濃く残し、雄大で変化に富んだ自然景観は火山活動の賜物だ。

火山のある地に暮らし、火山とともに生きる。

厳しい冬の寒さが美しいと感じられるのは、

火山がもたらす暖かな恩恵を身に沁みてわかっているからなのかもしれない。



④ 砂湯周辺の寄せ氷。湖に薄く張った氷が、風に押され岸に寄せられる。薄氷が割れ細くなったり、美しいモザイクのような氷の芸術作品が出来上がる。厚い氷に閉ざされる前の薄氷タイプと、湖が解氷する頃に見られる粗氷タイプなど形も様々。⑤ 地表に姿を現した硫黄泉は、人々の身体を芯から癒し、温泉川を経て屈斜路湖へ注ぐ。冷えた朝、お湯が流れる川沿いには霧氷が輝き、見る者的心を奪う。温泉の”効能”は多岐にわたる。⑥ 阿寒摩周国立公園の主要な活火山である硫黄山。風がない冬の日、噴気孔から上がる水蒸気は天高く白く舞い上がり、火山としての迫力を増す。温泉はもちろん、地熱エネルギーや酸性土壌が織りなす独特の植生など、硫黄山がもたらす影響は多様で絶大である。

地球のダイナミズム、エネルギーを感じる場所が阿寒摩周国立公園にはたくさんある。

その土地が持つ真の魅力。それを感じとるセンスは誰の心にもある。

目をつむり、耳を澄ませ、深くゆっくり呼吸する。

身体がじんわりと大地に沁み込んでいく感覚。

うまく景色と同化できたら、

目の前に広がる風景は、あなたが感じたあなただけのものになる。



⑦半結氷の摩周湖。様々な条件で印象が変わるが、鏡のような濃紺の湖面を背景に、ダケカンバの霧氷の白が浮かび上がる瞬間は筆舌に尽くしがたい美しさ。



青と白の空間へようこそ。晴天率が高い道東の冬。

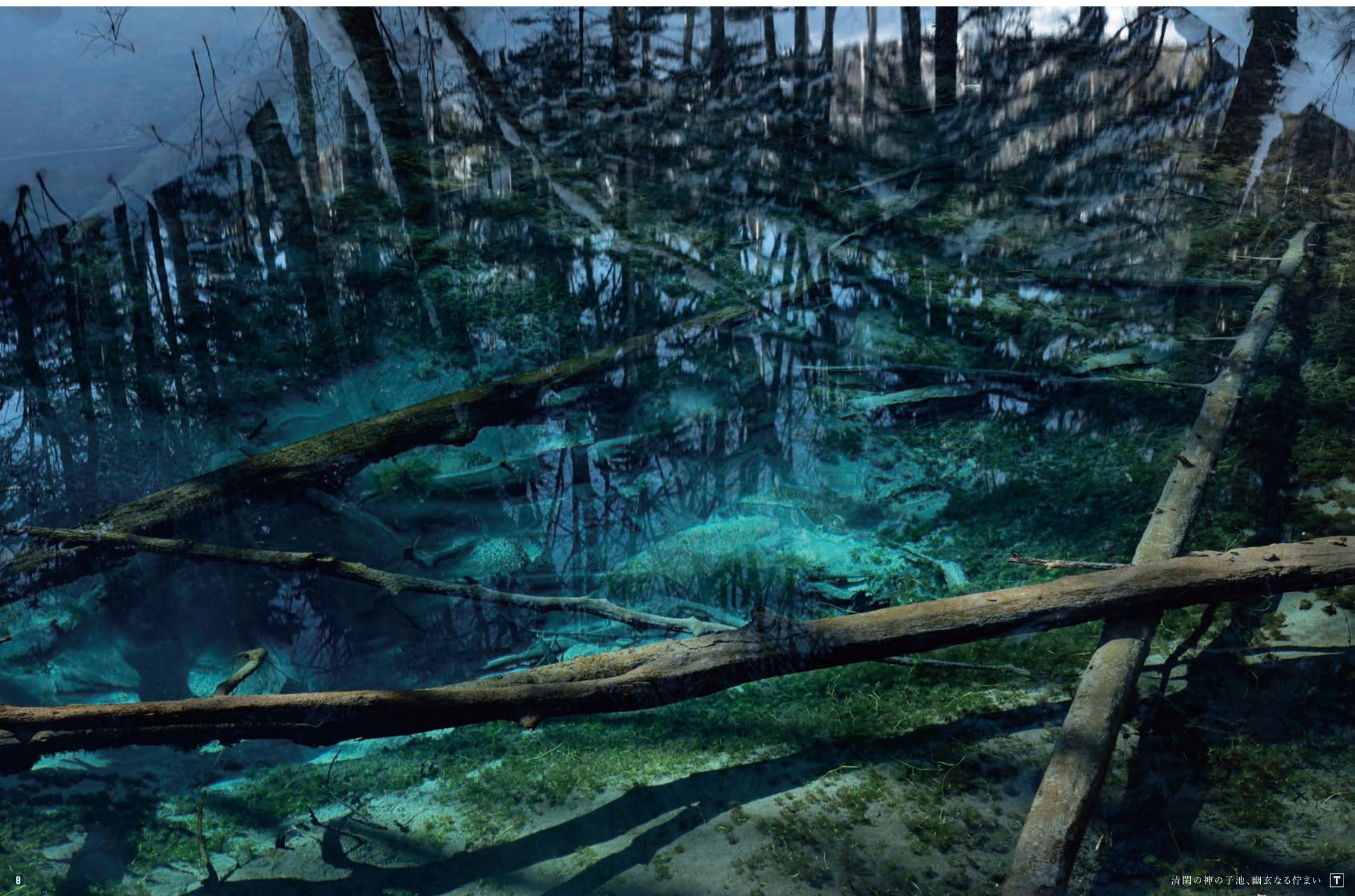
樹氷のトンネルを抜ければ、どこまでも青く澄みわたる空が広がる。

冬にしかない景色に会いに、私たちは体力と時間の限り、歩き続ける。



① 屈斜路湖の北岸に位置する藻琴山。オホーツクブルーと樹氷をバックにハイクアップ。道東を一望できるロケーションが人気で、週末はスノーハイカーでにぎわう。① 摩周湖外輪山を歩く。夏は腰ほどの高さの熊笹が雪に覆われれば、私たちにつかの間の往来を許してくれる。摩周ブルーに霧氷が映える。まさに絶景。① 摩周湖の伏流水ともいわれる神の子池。奥深い森の中にひっそりと水を湛える。あまりの透明さに息をのむ。風に舞う粉雪が、その美しい神の子池ブルーに吸い込まれていく。







種が落ち、芽生え、大地に根を張り、長い時間をかけ、確固たるものとなる。悠然とそびえる山の裾野に広がる亜寒帯性針葉樹林を中心とした原始的な森。その木々の集合体は水を貯え、湖を満たし、大地に潤いを与え続ける。この国立公園の立役者は、他ならぬこの深く豊かな森であるに違いない。

❾ 双湖台よりベンケトーを見下ろす。阿寒らしい深い針葉樹の森。モノクロームの重厚な世界に、静かにその姿を現す。奥にはパンケトーがある。❿ 阿寒湖より雄阿寒岳を望む。結氷した湖面に白く光るのはフロストフラワー。霜の花ともいわれ、発生条件が整った朝にしか見られない。太陽熱や気温の上昇とともに僅く消える。❬ 初冬の雌阿寒岳を登る。標高1,499Mの活火山で、日本百名山の一つ。積雪期の真っ白な火山は壯観だが、装備や知識、体力など十分な準備が必要。





阿寒摩周国立公園の、冬の宝物たち。

阿寒摩周国立公園



PHOTOGRAPHER

片瀬 志誠

[S] HINOBU KATASE

國分 知貴

[T] OMOKI KOKUBUN

鎌野目 純基

[J] UNKI YARINOME

土田 祐也

[Y] UYA TSUCHIDA

夕暮れのオンネトー、茜色に染まる離阿寒岳 [S]